



1 緑を取り入れた、業務に集中できる環境の事務所
3 社員の声から導入された健康器具。会社全体で社員の健康づくりを積極的にサポート

2 社内に並び表彰状や認定証。2年連続で「健康経営優良法人」に認定され、取り組みが高く評価されている
4 「健康経営」推進のステッカーが貼られたエントランスドア

技術力×健康経営で成長し続ける 半導体製造装置の設計で産業を下支え

アザ
AZAエンジニアリング(株) 代表取締役 長谷川 孝氏

AZAエンジニアリング株式会社(中央区鹿沼台)は、半導体製造装置を中心とした各種産業機械の設計・開発支援を行う技術会社です。機械設計、電気設計、ソフトウェア開発など幅広い技術サービスを提供しているほか、グループとしてアミューズメント技術コンサルティング事業や、図面作成・3Dモデル作成などを低コストで提供する事業も展開しています。また、健康経営優良法人ブライツ500(全国上位500社)にも認定され、社員の心身の健康と働きがいを重視したウェルビーイング経営を推進しています。同社の長谷川孝社長に話を聞きました。

の強固な取引関係を維持しています。当社は設計業務に特化することで、技術者は純粋な設計に業務時間の大半を充てることが可能です。この環境が、社員にとっての技術的なやりがいと定着率の高さにつながっています」

健康経営に取り組むようになったきっかけは？

「当社は2019年、事業の多角化がうまくいかず、債務超過に陥りました。設計事務所という特性上、残業時間が長く、体調不良を訴える従業員

員や離職が相次いだことから、会社を立て直すためにも健康経営に取り組みました。その一環として健康経営優良法人の認定に向けたサポートも受けました。現在は、残業時間が月平均5時間程度まで削減しています」

SNSやAI(人工知能)を積極的に活用されている狙いについてお聞かせください。

「SNSの活用は採用力の向上と事業の集客が目的です。自社サイトのブログを中心に、LinkedInやInstagramといったSNSでも内容を共有しています。特に30～40代向けには『キャリアブログ』、技術者向けには『技術コラム』を週1回配信するなど、読者ターゲットに合わせて使い分けています。SNSの発信を強

化した結果、ブログは2000号を達成し、採用では最近4カ月間で120人の応募を獲得しました」

「その一方で、生産性の向上と技術的差別化を図るためにAIの活用にも取り組んでいます。具体的には有料版のChatGPTをエンジニアらが業務で使用し、CADという支援ツールにAIをリンクさせることにより、数値を変更するだけでモデル全体が自動調整される仕組みを構築した事例もあります。また、仕様書の作成やメール返信、アイデア出しなどの間接業務にもAIを活用し、空いた時間を本来の設計業務に充てることで時短と効率化を図っています」

今後の経営目標についてはどうお考えですか？

「社員とその家族の健康を大切にしていけるとともに、設計プロセスの革新や業務の効率化を進め、顧客への提案の質やサービスをさらに向上させていきます。これにより当社の収益性を高め、その分を社員に還元していく方針です。具体的には、当面の目標として平均年収を600万～650万円に引き上げたいと考えています。相模原市内の中小企業としてトップレベルの給与水準を目指していきます」

AZAエンジニアリング(株)

〒252-0233
相模原市中央区鹿沼台1-9-15
TEL: 042-776-5007
<https://www.aza-eng.co.jp/>

真空機器の設計を軸に精密機械設計や電気設計なども手掛けています。

「創業当初から一貫して、半導体製造装置の設計を専門としてきまし

た。現在は、FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置や電子部品製造装置の設計などを手掛けています。長年培ってきた専門性と技術力が裏付けとなって、大手メーカーと